

診療科特集 Vol.3

乳腺・内分泌外科

乳腺・内分泌外科の特徴

1. 県下第一位の乳癌症例数
2. 県下唯一の鏡視下甲状腺手術認定施設
3. JCOG等の全国レベル臨床研究推進

スタッフおよび施設認定

当院外科はスタッフ10名とレジデント2名で構成されています。

前田茂人乳腺・内分泌外科医長は、長崎大学第二外科乳腺・内分泌班チーフを8年担当した後に当院へ赴任し、乳癌診療を中心に現在10年目を迎えています。本年度より森田道医師が加わり、スタッフ2名とパワーアップしました。

日本乳癌学会認定施設、日本内分泌外科学会認定施設、日本甲状腺外科学会認定施設、鏡視下甲状腺手術認定施設であり、外科学会専門医取得後のスペシャリスト育成が可能です。乳癌診療は、放射線科、病理診断科の協力・応援のもと、薬剤師、病棟看護師、外来看護師、外来化学療法看護師、認定看護師、ソーシャルワーカー、ドクターズクラークによるチーム医療を行っています。

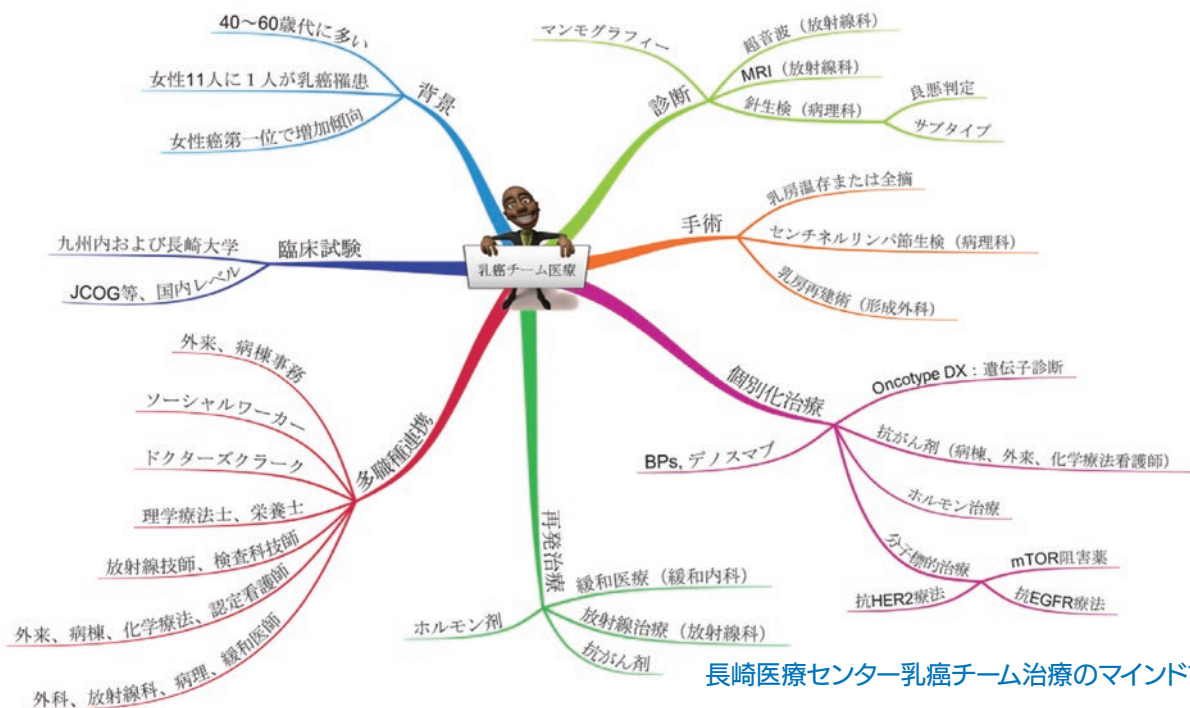


前田 茂人

日本乳癌学会(認定医・専門医)、日本内分泌学会(専門医)、マンモグラフィ読影(認定医)、日本乳癌学会(評議員)、日本内分泌外科学会(専門医・評議員)、日本内分泌・甲状腺外科学会(専門医)、日本甲状腺外科学会(評議員)、九州外科学会(評議員)、小切開・鏡視外科学会(評議員)、日本がん治療認定医機構(認定医)、ASCO member

森田 道

日本乳癌学会(認定医)、マンモグラフィ読影(認定医)

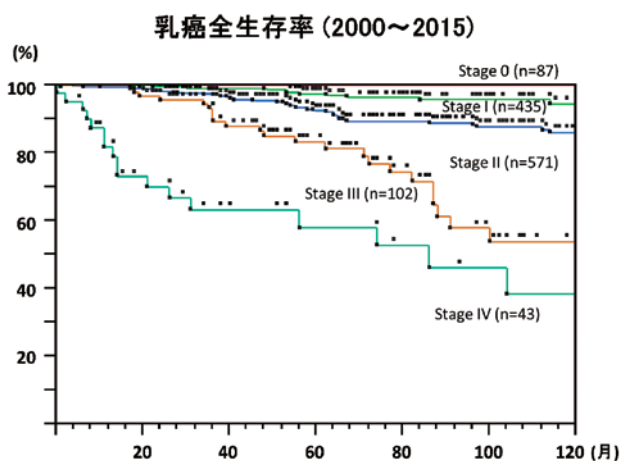


長崎医療センター乳癌チーム治療のマインドマップ

乳癌症例数と10年生存率

2014年の手術ランキング(週刊朝日MOOK「手術数でわかるいい病院2016」(朝日新聞出版発行))では、九州で第15位であり、県内では第1位の手術数でした。2007年からの累積手術数は1,000人を超えています。また、手術だけでなく、術後補助療法や再発治療として、抗がん剤やホルモン治療で関わった人の累積は1,500人以上になります。

乳癌は、手術だけでなく抗がん剤やホルモン剤そして分子標的治療薬が良く効きます当院における10年生存率は、ステージ0:100%、I:94%、II:86%とステージIIまでなら約90%の人に10年生存が期待できます。また、遠隔転移のあるステージIVの方の10年生存率が38%であり、転移があっても長生きできるチャンスはあります。



鏡視下甲状腺手術

甲状腺の病気は若い女性に多い傾向があります。

甲状腺の手術は元来頸部に手術創が残るため、美容上問題となることがありました。そこで、頸部に手術創を残さない内視鏡補助下甲状腺手術(VANS)を導入し、当院は長崎県で唯一の認定施設になっています。

臨床研究の推進

当科では、全ての治療を標準治療(ガイドラインに準拠)か、または臨床試験への参加を目指しています。多くの場合は標準治療で治癒できますが、時にはガイドラインに準じるだけでは治療法が限られる場合があります。

臨床試験への参加は、全国レベルの医療提供や情報

治療の目的は「長生きできる」と「QOLの維持」です。癌と診断された人が、「その人らしく長生きできる」ように、科学的根拠に基づき(Evidenced Based Medicine: EBM)つつ、その人の人生設計(物語)に寄り添える(Narrative Based Medicine: NBM)ように努めています。当院の看護理念「その人がその人らしく」生きられるように、長崎医療センターで何が出来るかを患者さんと一緒に考え、最新の医療を提供しています。



乳癌全生存率

病期別生存率	長崎医療		日本乳癌学会	
	5年生存率	10年生存率	5年生存率	10年生存率
stage 0 (n=87)	100	98	100	96
stage I (n=435)	97	97	94	89
stage II (n=571)	93	91	86	79
stage III (n=102)	83	72	54	55
stage IV (n=43)	58	43	38	26



共有により、患者および施設へ資するがあると思われれます。私たちは、JCOGをはじめとするいくつかの全国レベルの臨床試験、九州地区の臨床試験、および長崎大学と連携して臨床試験を進めています。

